



大原女図 太田聴雨筆 個人蔵



鳥語図 太田聴雨筆 個人蔵



軍鶏図 太田聴雨筆 個人蔵



山水図 東 東洋筆 個人蔵

①東 東洋（あずま どうよう）1755～1839

仙台四大画家の一人。加藤元方の長男として石越（現登米郡石越町）に生まれ、金成（現栗原郡金成町）に移住した。玉蛾と号し、やがて東洋または白鹿園と号した。仙台地方に滞在していた狩野師信の養子となり江戸へ出、さらに京都に上り活躍をする。その後仙台藩お抱え絵師となる。仙台城二の丸の襖絵や、長男東寅とともに藩校養賢堂の障壁画を描いている。70歳になった東洋は京都を離れ、仙台に戻る。帰郷後の東洋は仙台藩のほかに角田邑主・石川氏の御用を仰せつかった。

②菅井 梅閑（すがい ばいかん）1784～1844

仙台四大画家の一人。仙台城下に生まれる。東齋・梅館さらに梅閑と号した。来仙中の画家 根本常南に師事する。やがて京都に上り、東東洋宅に寄宿しつつ、古画の写生に精を出す。その後長崎にて清人 江稼圃に師事する。活動の拠点を大阪・京都に移し、頼山陽らとの親交を重ねた。

帰郷後、涌谷邑主・伊達桂園のもとに出仕するようになる。

③酒井 抱一（さかい ほういつ）1761～1828

姫路城主酒井忠似の弟として江戸に生まれる。江戸時代後期の琳派の画家。幼名栄八、名は忠因。抱

一のほか屠竜、雨華庵と号す。早くから各種の文芸に才能を示した。狂歌は四方赤良について尻焼猿人と号し、俳諧は馬場存義に学んで終生愛好し、句集に「軽拳館句集」がある。書も得意であった。

⑤山内 耕烟（やまうち こうえん）1819～1907

宮城県本吉郡志津川町に生まれる。名は健、字は強郷、耕烟と号す。小西皆雲、茂庭竹泉らとあわせて「明治の仙台南宗三大家」と呼ばれている。

東東洋に師事し、江戸に出て大槻磐溪に儒学を学ぶ。明治維新後仙台に戻る。

⑥大内 松華（おおうち しょうか）1835～1909

初め尚之助といい、また主水と称し、のちに省吾と改める。伊達家の家格一族に列し、西郡邑1200石を有した。松華、竹溪または三谷と号す。大槻磐溪、樋口閑斎に学問を学び、山内耕烟に画を学び、茂庭竹泉らと交流をもった。

⑦小西 皆雲（こにし かいうん）1841～1909

通称忠蔵、桃生郡鳴瀬町の人。山内耕烟、茂庭竹泉とともに仙台南宗三大家とよばれる。田崎草雲に師事し、長崎で鉄翁の指導をうける。のち中国に渡る。帰国後東京に住み、仙台に帰るがまた東京に戻る。



釣鯛図 佐藤神城筆 個人蔵